

科目ナンバー： 研究・CNS：MC7112

授業コード： 6930701000

講義科目名称： 老年高度実践看護学実習Ⅲ

英文科目名称： Advanced Clinical Practice of Gerontological NursingⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択 老人看護CNS必修
担当教員			
◎小長谷百絵、原等子、東條紀子			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 90時間			
	【担当教員】				
	【氏名】 ◎小長谷 百絵 原 等子 東條 紀子	【所属】 新潟県立看護大学 同上 同上	【研究室】 213 303 308	【メールアドレス】 konagaya@niigata-cn.ac.jp naohara@niigata-cn.ac.jp toujou@niigata-cn.ac.jp	
	【本学の科目区分】 専門分野				
	【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】				
	研究 CNS 助産	◎	◎	◎	◎ ○

到達目標	<p>1) 在宅療養中の高齢者に生じている課題・ニーズについて、包括的にアセスメントできる。</p> <p>2) 高齢者及び家族のニーズ、解決すべき生活課題を含む看護の焦点をあげることができる。</p> <p>3) 高齢者及び家族のより良い療養生活のために、専門性の高い看護実践ができる。</p> <p>4) 専門性の高い看護実践を目標に合わせて評価できる。</p> <p>5) 多職種と協働して専門性の高いケアの実践、教育、連携と調整、コンサルテーション、倫理調整ができる。</p>
------	--

授業概要	<p>慢性の疾患・障害や認知症・高次脳機能障害等により入院治療を経た高齢利用者が多く占める訪問看護ステーションにおいて訪問看護を実習する。また、在宅高齢者看護に関連する課題を持って実習に臨み、看護体験を踏まえた上で課題レポートを作成する。指導教員並びに在宅高齢者看護に経験豊富な看護管理者、臨床指導者のもとに実習を行う。</p> <p>なお、高度看護実践のケースレポート（看護過程 1 例）と課題レポートを各 1 部作成する。</p>
------	---

授業計画	<p>1 授業内容 授業形態：臨地実習 学修課題：高度看護実践 学修内容：在宅療養中の高齢者に生じている課題・ニーズについて、包括的なアセスメントにより明確にできる (1) 疾病、障害に加え、加齢による変化が加わっている複雑な身体状況をフィジカルアセスメントできる (2) 家庭環境を考慮し、諸理論を活用して生活行動、心理、社会面での個別的なアセスメントができる (3) 家族のおかれている状況（家族介護力や精神面・身体面・経済状況等）や看護・介護体制を包括的にアセスメントできる 事前学修：専門看護師に求められる高度実践について明確にしておく 事後学修：事例のレポート作成 備考：小長谷、原、東條</p> <p>2 授業内容 授業形態：臨地実習 学修課題：高度看護実践 学修内容：高齢者及び家族のニーズ、解決すべき生活課題を含む看護の焦点を明確にできる (1) 身体機能や症状、障害等に加え加齢による影響も考慮して健康課題を明確にできる (2) 高齢者のストレングスを把握し、高齢者の自立を支援するための生活面や行動能力の課題が明確にできる (3) 高齢者や家族の人生観や価値観を踏まえ、それぞれのニーズを明確にできる (4) 家族関係、及び取り巻く社会環境（医療・保健・福祉）面での課題を明確にできる 事前学修：専門看護師に求められる高度実践について明確にしておく 事後学修：事例のレポート作成 備考：小長谷、原、東條</p> <p>3 授業内容 授業形態：臨地実習 学修課題：高度看護実践 学修内容：高齢者及び家族のより良い療養生活のために、専門性の高い看護実践と評価ができる (1) ニーズを満たし、価値観を重視したより良い療養生活のために優れた研究を活用するなどし</p>
------	---

4	<p>て専門的ケアプランが立案できる  (2) ケアプラン実行の看護実践ができる  (3) 計画による評価指標に従い、ケアの客観的評価を行い、ケア計画の修正ができる  (4) ケアの評価やリフレクションを行う中で、自身の実践上の課題を明らかにできる  事前学修：ケアプランに沿った実践と評価について学修する  事後学修：事例のレポート作成  備考： 小長谷、原、東條</p> <p>授業内容  授業形態： 臨地実習  学修課題： 高度看護実践  学修内容：多職種と協働して専門性の高いケアの実践、教育、連携と調整、コンサルテーション、倫理調整、研究活動ができる  (1) 在宅における老年看護に対する課題をもって実習に臨み、訪問事例の実践など看護体験を踏まえ、必要に応じ多職種、他機関との連携を含めた実践レポートを作成する  (2) ケア体制、介護サポートの課題に対して、改善するための働きかけ（スタッフ教育またはコンサルテーション）ができる  (3) 在宅における倫理的課題への対応について、訪問看護チームや多職種間での話し合いなどの実践をみて考えることができる。  事前学修：ケアプランに沿った実践と評価について学修する  事後学修：カンファレンスにおけるディスカッションにより事例のレポート作成  備考： 小長谷、原、東條</p>
事前・事後学習	事前学修：各自の看護実践上の課題や関心を明確にする。 事後学修：看護実践を振り返り新たな課題に対して文献を精読する。
評価方法、評価基準	到達目標 1～5に対して実習事前準備、実習の出席状況、実習目標達成度の自己評価、実習指導者と指導教員による評価、実習レポートの評価を総合して行う。 実習事前準備：20%、実習参加状況：30%、実習ならびに課題レポート：50%により評価する。
テキスト	最新の論文や文献を使用するため現時点では指定せず授業内で案内する。
参考図書・資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既修の科目における参考文献や資料</li> <li>・実習の中で随時紹介する。</li> </ul>
受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習要項を事前に配布し、説明する。実習の目的・目標を十分理解すること、また、実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制などについては、ホームページなどを活用して情報を入手し理解しておくこと。</li> <li>・実習の目的・目標達成のための、具体的な実習計画書（課題、受持つ対象像、日程と具体的活動など）を事前に作成し、教員・臨地指導者と調整すること。</li> </ul>
教員からのメッセージ	・CNS に求められる 6 つの役割について十分復習して理解を深めておくとともに、CNS を志向する学生としての基本的なマナーを守り、看護職のモデル的役割を發揮してほしいと思います。また、実習Ⅲの目的・目標を十分理解し、その達成に向けて臨地指導者とより良い関係のもと、調整しつつ効果的な実習を展開することを期待しています。
オフィスアワー	随時（メール調整）